

新年に当たり

謹んでごあいさつ申し上げます

今年の干支「丑(牛)」は、忍耐力と英知の象徴とされています。そのため、丑年は、物事を粘り強く着実に進めることが大切な年であるとも言われています。県民の皆様が一步一步前に進み、充実した一年となることを心から願っております。

さて、昨年、世界に拡大した新型コロナウイルス感染症は、あらゆる社会経済活動に大きな影響を及ぼしています。現下の感染状況や経済動向等を的確に見極めながら、県民の命と健康を守り、県民生活や地域経済への影響の最小化を図るため、必要な対策に万全を期して参ります。

また、令和元年東日本台風で受けた甚大な被害からの復旧・復興に着実に取り組むとともに、頻発・激甚化する自然災害に備え、災害対応力の更なる強化を図って参ります。

現在、県では、来年度から5年間の県政の基本指針となる「とちぎ未来創造プラン(仮称)」の策定を進めております。プランに掲げる「人が育ち、地域が活きる 未来に誇れる元気なとちぎ」の実現に向け、とちぎの未来を担う人づくり、未来技術を活用した次世代産業の創出・育成、県民の健康づくり、防災・減災対策など、新しいとちぎのかたちを描き、次の世代につなげる取組を積極的に推進して参りたいと考えております。

特に、人口減少対策につきましては、社会全体で結婚から妊娠・出産、子育てまでを切れ目なく支援する環境づくりを推進するとともに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大による人々の行動・意識・価値観の変化に伴う地方への関心の高まりを的確にとらえ、「関係人口」の創出・拡大や移住・定住の促進などに取り組んで参ります。

今年の夏には、延期となった東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され、来年には、本県で第77回国民体育大会「いちご一会」とちぎ国体」及び第22回全国障害者スポーツ大会「いちご一会とちぎ大会」が開催されます。これらの成功に向けて、万全の準備を進めて参りますとともに、開催を契機として、本県の魅力・実力を国内外に効果的に発信して参ります。

私自身がオールとちぎの先頭に立ち、栃木県の輝く未来の創生に向けて挑戦して参りますので、より一層の御理解と御支援をお願いいたします。

令和3年1月

栃木県知事 福田 富一